

京都総評

京都
総評

京都地方労働組合総評議会：発行

第234号

発行所
京都市中京区壬生仙念町30-2 ラボール京都5階
京都地方労働組合総評議会（京都総評）
電話 075 (801) 2308 FAX 075 (812) 4149
E-mail sohyo@labor.or.jp URL http://www.labor.or.jp/sohyo/
〈発行責任者〉 梶川 憲 〈編集責任者〉 吉岡 勝

京都労働相談センター
電話 0120-378-060 E-mail scent@labor.or.jp

9月4日(水)	雇い止め問題市役所前宣伝 8:15 京都市役所前
9月4日(水)	消費税・社会保障宣伝 18:00 四条烏丸
9月6日(金)	高齢者怒りの行動 16:00 マルイ前
9月18日(水)	争議宣伝・労働法制宣伝 18:00 四条烏丸
9月19日(木)	19の日行動街頭演説・デモ 18:30京都市役所前

主な日程

第88回 定期大会を成功させよう

8時間働けばまともな暮らしをさせる賃金を フトコロをあたたためて地域も元気に!



毎月19日、市民にアピール



第三の特徴は、若い仲間をわらう安倍政権のスケージュールを大きく狂わせたことだ。

88回大会を迎える情勢と闘いの特徴
改憲を掲げて暴走政治を続ける安倍政権は、政治の私物化にとどまらず、政府統計の改ざん・偽装にまで手を付け、看板政策のアベノミクスの成果までもが偽装であったことが明らかに。国会内外から安倍政権の退陣を求め、国民の手に立憲主義

池田和弘事務局長に聞く
京都総評は、9月7日(土)にラポール京都で第88回定期大会を開催します。マスコミも含めて大きな注目を集めた2つの調査活動(生活実態調査と公契約実態調査)や最低賃金引上げ・賃金底上げのたたかい、安倍9条改憲NO!のたたかい、職場・地域での活動など、この一年の活動を振り返り、成果と教訓を共有し、新たな一年の運動方針を確立する大会です。

減り続ける年金」と消費税増税、「9条改憲」が重要争点としてたたかれました。結果は、改憲勢力(自民・公明・維新)が全体として議席を減らし、改憲発議に必要な3分の2を割り込みました。いま、国会内外から安倍政権の退陣を求め、国民の手に立憲主義

ていまして。7月21日投開票でたまたまこの間のたたかいた特徴の第一は、19年国民春闘のたたかいは通じて、地域経済に効果のないアベノミクスの本質が露呈するともに、賃上げや雇用の安定など、働く者の家計をあたためることに地域経済活性化の中心課題であることが、地域経済団体や中小企業団体のなかにも合意が広がり、「立憲主義を守れ」と、ともに運動を進めてきた、市民運動のみならずの共通認識が高まったことです。

第二の特徴は、9条改憲で「戦争する国」づくりをねらう安倍政権のスケジュールを大きく狂わせたことだ。第三の特徴は、若い仲間をわらう安倍政権のスケジュールを大きく狂わせたことだ。

安倍政権の暴走政治と財界・政府一体の「成長戦略」によって、増大する不安定雇用と貧困、労働状況の悪化、地域経済の疲弊など、矛盾は労働者や家庭、職場や地域、産業ごとに具体的に現れています。5万人対話を産業・職場・地域で展開し、組織化の大運動をすすめてみましょう。悩みや怒りを共有して対話を広げ、要求と政策を明確にして共同を

ふつうに暮らすには1600円必要
この額では暮らせない

宵山で最賃うちわを配る
人対話を産業・職場・地域で展開し、組織化の大運動をすすめてみましょう。悩みや怒りを共有して対話を広げ、要求と政策を明確にして共同を

安倍内閣の退陣を求め、職場・地域で5万人対話・組合拡大運動を総がり!

私たちがたたかいたのは、安倍政権の改憲スケジュールを狂わせ、政治の私物化、偽装、改ざんの実態を白日の下にさらしてきました。一方で、追い詰められた安倍政権は、国会での多数を頼りに、立憲主義破壊の議会運営に終始しています。いまこそ、府民の下へ打って出て、労働者の団結と連帯、市民との共同の力で、安倍政権の暴走政治ストップ、政権の打倒をめざしましょう。

第二は、暮らせる賃金と均等待遇、まともな雇用を求め、権利としての社会保障の確立で、暮らしを守るたたかいをすすめることです。「8時間は働けば、まともな暮らしができる賃金をめざして、最低賃金の大幅引上げなど、賃金の底上げをめざしましょう。」

第三は、暮らせない、仕事も地域経済も立ち行かない現実を社会的に明らかにして対話と共同を広げ、職場と地域からたたかうことです。

第四は、社会保障闘争を「国の責任放棄とたたかい」と位置付け、医療や介護、年金の改悪、社会保障の市場化に反対し、権利としての社会保障を取り戻す大運動に取り組むことです。

第五は、すべての単産・地区労働協が、それぞれの産

2019年度の5つの重点課題
第一は、憲法改悪阻止、憲法を守り生かすことを求めて、一大府民運動を展開し、「憲法改悪反対、戦争する国づくり反対」の大共同をめざしましょう。

第二は、暮らせる賃金と均等待遇、まともな雇用を求め、権利としての社会保障の確立で、暮らしを守るたたかいをすすめることです。「8時間は働けば、まともな暮らしができる賃金をめざして、最低賃金の大幅引上げなど、賃金の底上げをめざしましょう。」

第三は、暮らせない、仕事も地域経済も立ち行かない現実を社会的に明らかにして対話と共同を広げ、職場と地域からたたかうことです。

第四は、社会保障闘争を「国の責任放棄とたたかい」と位置付け、医療や介護、年金の改悪、社会保障の市場化に反対し、権利としての社会保障を取り戻す大運動に取り組むことです。

第五は、すべての単産・地区労働協が、それぞれの産

2019年度の5つの重点課題
第一は、憲法改悪阻止、憲法を守り生かすことを求めて、一大府民運動を展開し、「憲法改悪反対、戦争する国づくり反対」の大共同をめざしましょう。

第二は、暮らせる賃金と均等待遇、まともな雇用を求め、権利としての社会保障の確立で、暮らしを守るたたかいをすすめることです。「8時間は働けば、まともな暮らしができる賃金をめざして、最低賃金の大幅引上げなど、賃金の底上げをめざしましょう。」

第三は、暮らせない、仕事も地域経済も立ち行かない現実を社会的に明らかにして対話と共同を広げ、職場と地域からたたかうことです。

第四は、社会保障闘争を「国の責任放棄とたたかい」と位置付け、医療や介護、年金の改悪、社会保障の市場化に反対し、権利としての社会保障を取り戻す大運動に取り組むことです。

第五は、すべての単産・地区労働協が、それぞれの産

京都総評 第88回定期大会

とき **9月7日(土)**
午前10時～午後5時(予定)

ところ **ラポール京都ホール**

京都府最低賃金

882円 → 909円に

8月5日、京都府最低賃金審議会が京都府最低賃金について、時間額を27円引上げて909円とする(効力発生10月1日)を決定することを答申しました。

京都総評が発表した最低生計費試算調査では、京都府で普通に暮らすためには1600円以上が必要であり、時間額1000円にも満たない今回の答申額は大いに不満です。

引き続き、最低賃金を今すぐ時間額1000円にし、1500円以上の実現と、地域間格差をなくし、全国一律の制度とするよう運動を強めていくことが重要です。

同時に、中小企業・小規模事業者に対する支援策について、真に「直接的かつ総合的な抜本的支援策」へと抜本改善を求めていくことが必要です。

京都総評では、改定された最低賃金が発効する10月1日に、最賃周知一斉ターミナル宣伝を行い、最賃の改定を知らせるとともに、「最賃1500円をめざし、いますぐ1000円に」の世論をひろげる取り組みを行うこととしています。

TUBUYAKI

人生寿命 80年のなか、60年の月日を迎えるようとしていいます。世間生活水準は発達上の時代に生まれ体は小さく、中々歩くのが遅かったです。長い人生の中で命に係わる危ない事もありましたが運に守られてきた感が強かった事を思い出します。一般に猪は突進型と言われていますが性格の形成は生まれた環境で備わって行くものと言われていいます。これからの世代年金支給年齢が65歳という時代になって来ます。65歳以降に何をしても楽しむべし、いのでしょか?年金も減少するし、体力も衰えていきます。年金は最大限に払い返して額が少ない社会でこれだけの生活費をどうやっていこうか?老後生活をもっと意義のある生活を試みたいと感じる今日この頃です。これからの日本どの方向に向いていくのでしょか?

(KN)

京都総評も加盟している京都労働者福祉協議会（京都労働協）が毎年行っている「福島視察とボランティア」が、8月1日から4日の日程で行われました。

福島第一原発の視察、原発立地の大熊町の視察などで、福島の実態を無理解や隠そうとする政府の対応に改めて怒りがわいてきました。「福島は今」を参加者の報告でお伝えします。

廃炉作業中の福島第一原発構内へ

京都労働者福祉協議会（京都総評加盟）が主催した福島への原発視察と桃出荷作業ボランティアに参加。視察は、東電廃炉資料館で持ち物をすべて置き、

バスで福島第一原発構内へ入りました。

汚染して構内留め置きになった車両の多さ。水素爆発でねじれた鉄筋、崩れた建屋からがれき撤去のクレーンが動き、汚染水満タンのタンクが林立する中を、線量計と防護服を付けた多



柵の向こうは帰還困難区域

をアピールする安倍政権。」「中間貯蔵地域には2400人が住んでいた。ここが我が家です。あの日から洗濯物もそのままだ。もう戻れない、補償をもらっても、先祖代々の土地を手放す、その痛みはどんなものか...」

は？汚染水は？...。原発を基本電源と呼ぶ政府の無責任と、「アンダーコントロール」と言う首相のウソが、次々と頭に浮かびました。

原発ゼロを1日も早く！と実感した視察

山縣 哲也（全国一般書記長）

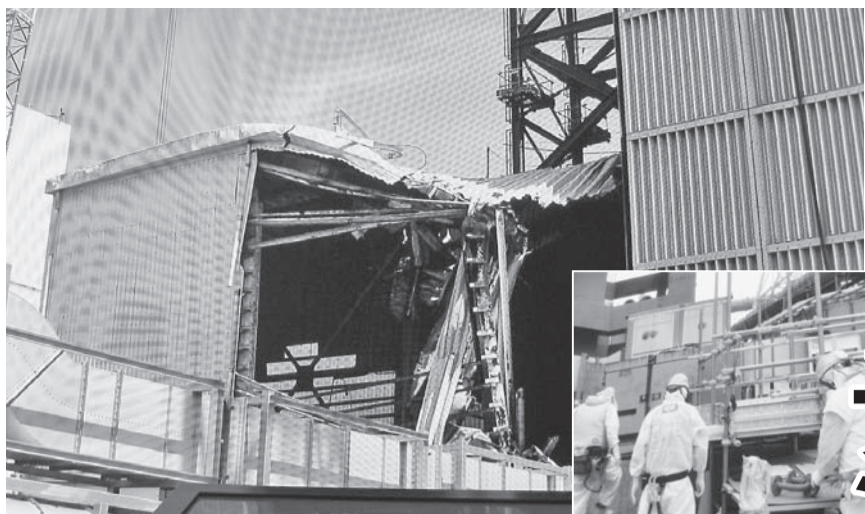
震災後、どちらか程度も訪れている福島・浜通りと宮城・南上地区の現状を見て感じたのは、同じ月日が流れているにもかかわらず、原発被害のあるなしで、こうも状況が変わるのかということでした。8年半が経過してなお、帰還困難区域はまるで時間が止まったかのように全くの手つかず



状態で、1Fの現状と合わせ、ひとたび原発が過酷事故を起こせばどうなるのかを思い知らされた気がしました。1日も早く原発ゼロを！

福島は今 先の見えない廃炉作業

「アンダーコントロール」のウソを実感



東京電力廃炉資料館で撮影



このわさを痛感です。東電は、「ご迷惑をおかけして申し訳ありません」から説明を始めます。しかし、直面している課題は、①溶けた核燃料（デブリ）の取り出し、②使用済み燃料保管プールから「安定保管」へ、③出続ける汚染水対策（6月は毎日130トンの地下水が流入し汚染、保管するタンクは増え続けている）、の三項目だとも。「廃炉へのロードマップに30年〜40年」と言う東電に、「出口はどんな状態を想定？」と質問が飛ぶ。「燃料を取り出して安定的保管まで...」ならば、残った建屋は？土地の汚染

人口の12%しか帰還できていない大熊町

河口 隆洋（京教組委員長）

東日本大震災から8年が経ちました。宮城県名取市閉上（ゆりあげ）では、更地は広がるものの、復興支援住宅が立ち並び、かさ上げされた道路が整備され、水田には稲が青々と生長し、復興に向けて変わり始めています。



しかし、福島県の大熊町・富岡町では、帰還困難区域などを中心に、除染もされず、水田は雑草と灌木に覆いつくさされています。住民が自由に立ち入ることができず、住宅も、商店も、農地も8年間放置されたままの荒れ果てた状態でした。原発事故の恐ろしさを改めて見る思いでした。

原水爆禁止2019年世界大会 in 長崎

平和の大切さ、核兵器廃絶をまわりの人に伝えたい

妹尾 宙輝（京都市民医労東支部）



今回、原水爆禁止世界大会にはじめて参加、改めて平和の大切さを知りました。

世界大会では被爆者の方々が、被爆当時の悲惨な体験や、その後の後遺症による生きていく苦しさを話されました。また、分科会では被爆当時の焦げ付いた生々しい瓦礫や建物の残骸を見て、原爆の破壊力や恐ろしさを体験することができました。

今回学んだことを若者である自分が身がまわりの人に伝えていく必要があると感じました。

このようなのは、日本の若者があまり認識できていないことも原因の一つであると思います。

民医労の仲間と共に

わたしのメオス本

京都自治労連執行委員 西山 英利

この本をお勧めするのは、著者が、日本の広告代理店No.2の博報堂で18年間勤務し内部事情に非常に詳しく、日本最大手の広告代理店である電通の圧倒的力によるマスコミ支配の仕組みを、具体的にわかりやすく書いてあるからです。テレビのニュースやドラマまでもが、政府やスポンサーの

て憲法改正国民投票が、電通にとって巨大な利益を生み出す一大イベントであると同時に、電通が国民投票に圧倒的影響力を与える仕組みを、諸外国との国民投票の違いなどにも触れながらわかりやすく解説しています。目から鱗の一冊！



書名・電通巨大利権
出版社・CYZO株式会社
サイゾー
著者・本間 龍
定価・1,300円+税